

第 49 回技術士全国大会（愛知・中部）を終えて



(株)和コンサルタント

菊池 昭宏

KIKUCHI Akihiro

(建設部門)

1. スタート

11月17日(金)、曇天のなか、JR徳島駅を8:00発の阿波EXP神戸号で出発して、新神戸駅で「のぞみ14号」に乗り換えて、名古屋駅に到着したのは11:55。新幹線の乗車時間は約1時間、トータルで4時間弱の行程であった。今回は、初めて“スマートEX”なるもので新幹線の切符を予約したが、JR四国管内では受け取りが出来ず、当日、新神戸駅のスマートEXコーナーで切符をゲットした。バスが遅れていたのいきなり“ひやひやした”スタートになった。

名古屋駅から金山駅まで電車で移動してから、大会会場である「名古屋国際会議場」まで徒歩(約30分)で向かう。

国際会議場というだけあって、そのスケールに圧倒される...が、エントランスから受付までの距離が長く、またそこからウェルカムパーティーの会場も離れていて、“なんだかなぁ”って言葉がぴったりだ。ふと4年前の徳島大会のことを思い出し、狭い会場でも綿密な計画(マニュアル)、段取り、そして何より“おもてなしの心”が大事なんだと実感した。受付を済ませてから、色づき始めた街を散策してホテルへチェックイン。



写真-1 スマートEX予約



写真-2 名古屋国際会議



写真-3 会議場エントランス

2. ウェルカムパーティー

17:30から開催されるウェルカムパーティーに参加するため、再び「名古屋国際会議場」へ向かう。そして、黒崎日本技術士会会長の挨拶により、パーティーがスタート。



写真-4 黒崎会長の挨拶



写真-5 会場の様子

3. 尚禮館の拳友と

今回、私が愛知県に向かうもう一つの理由は、現在、同じ空手の流派（沖縄剛柔流空手 尚禮館 本部：都城）で一緒に稽古している拳友に会うためである。ウェルカムパーティーを中途退席し、彼らの待つ居酒屋へ。

この居酒屋（さくら亭）を経営されてる方も、学生時代に都城本部道場で稽古されており、いわば“同志の会”である。楽しくて美味しくて、あっという間に時間が過ぎていった。



写真-6 さくら亭



写真-7 拳友たち

4. 分科会

翌、11月18日(土)は「名古屋国際会議場」にて、9:00～12:00まで“地球を守る、社会を守る、求められる技術士の活躍 ～新たな発見に向けて～”を大会テーマに掲げて、以下の4つの分科会で講演会やワークショップが開催された。

【第1分科会（防災）】改めて自然災害を知り、技術士として考える

【第2分科会（環境・エネルギー）】エネルギーや環境についての課題に取り組むため、我々技術士は何を学び、どう貢献すべきか

【第3分科会（青年）】ついしたくなる仕掛けで社会課題を解決するワークショップ

【第4分科会（ジェンダー）】自分らしく生きるために～歴史からジェンダーを考える～

私は主に「第1分科会」に参加していたので、その様子をお届けする。



写真-8 配布資料



写真-9 会場の様子



写真-10 講演1の様子



写真-11 講演2の様子

講演1では「気候変動時代の豪雨災害に備える」と題して、名古屋大学大学院の戸田教授に、講演2では「南海トラフ地震を乗り越えるために ～着眼大局着手小局、温故知新、居安思危、知彼知己百戦不殆で転禍為福～」と題して、名古屋大学の福和名誉教授にご講演いただいた。

講演1では、「気候変動により毎年のように甚大な洪水被害が発生し、施設で守り切る水害対策の限界、過去のデータに基づいた水害対策の限界が見えてきた。温暖化適応には時間がかかるため早期の意思決定が必要。治水計画を「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に見直し、集水域、河川区域、氾濫域を一つの流域として捉え、流域に関わるあらゆる関係者が協働して水害対策を行う“流域治水”への転換が必要」であるといった内容であった。

また、講演2では、「現代は、多くのことを人任せにしているため、俯瞰的に考える力が弱っている（着眼大局着手小局）。しかし、歴史がいろいろなことを教えてくれる（温故知新）。地震の危険を知れば危険を避けることができ、自分の弱さを知れば対策ができる。そ

れにより地震を乗り越えられ（居安思危、知彼知己百戦不殆）、さらに互いに助け合う素晴らしい社会を作ることができる（転禍為福）。最新の科学技術で災害を乗り越えるために、技術士は意識を変え対応すべき」といった内容であった...今ホットな話題である“どうする家康”の話を織り交ぜながら、「天正地震～伏見地震が発生していなければ、私たちは生まれていないでしょう」etc. 示唆に富んだ内容であり、久しぶりに“ぐっ”と引き込まれる講演だった。

5. 大会式典・分科会報告・歓迎演奏・記念講演

分科会の後は、昼食を挟んで「大会式典～分科会報告～歓迎演奏～記念講演」が開催された。大会式典は、平田大会委員長（日本技術士会中部本部長）の歓迎の挨拶で始まり、黒崎日本技術士会会長の式辞～来賓の祝辞へと続いた。



写真-12 大会式典の様子



写真-13 平田大会会長の歓迎の挨拶



写真-14 川村名古屋市長の祝辞

以下に、大会会長ならびに日本技術士会会長の挨拶文から印象に残っている部分を抜粋して紹介する。

『愛知は信長、秀吉、家康の三英傑を輩出した活力を受け継ぎ、我が国 GDP の一割を稼ぐ産業力を誇るとともに尾張名古屋は城でもつと云われますが徳川御三家としての庇護の下育まれた“からくり人形”“絞り染め”“陶芸”をはじめとするユニークな地域産業、ならびに肥沃な濃尾平野における先進農業技術を創出・発展させてきました。一方で、技術の進歩の裏側には多くの課題が残されています。我々の住む地球、そして地域社会に至るまで、次世代に引き継ぐための技術革新が必要です...』

『今回の技術士全国大会は“地球を守る、社会を守る、求められる技術士の活躍～新たな発見に向けて～”をテーマに開催されます。これまで私たちは、自然の驚異や外敵から自身を守るためにさまざまな技術を発達させてきました。火の使用から、小惑星から地球を守る「DART」計画に至るまで人類の歴史は、「守る」歴史であったと言っても過言ではないでしょう。～中略～ 地球を守る、社会を守るためには、現在の技術分野だけでなく、さまざまな技術分野、さらに社会、政治、経済といった広い視野を持つことも、我々技術士には求められているものと認識します...』

■分科会報告

大会式典に続いて各分科会による分科会報告が行われた。ここでは、「第2分科会：環境・エネルギー」および「第3分科会：青年」の様子を紹介する。

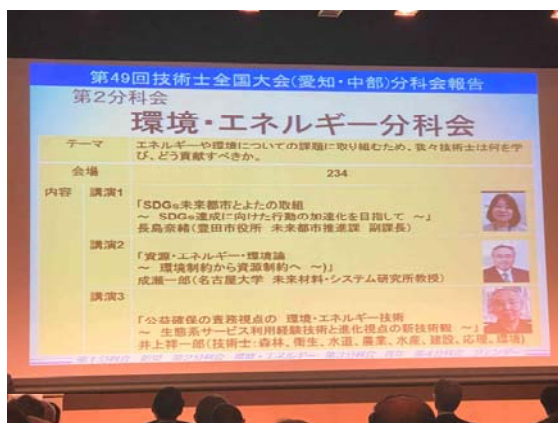


写真-15 第2分科会報告のスクリーン

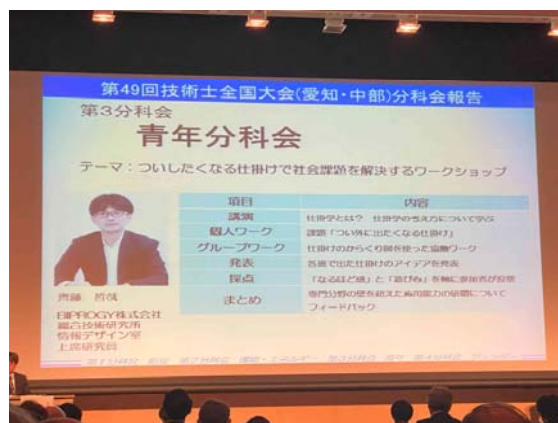


写真-16 第3分科会報告のスクリーン

■歓迎演奏～記念講演

分科会報告の後は、“辻純佳”さんのヴァイオリン独奏による歓迎演奏がなされ、凛とした気品ある音色と紡ぎ出される瑞々しい響きに心が洗われるようだった。そして、南山大学経済学部林順子教授による「愛知の産業発展の歴史—ナゴヤのものづくりの多様性—」と題した講演がなされ、17世紀から19世紀のおよそ3世紀にわたる愛知、特に尾張の経済史を概観した。

6. 大交流パーティー

大会式典終了後は「ANA クラウンプラザホテル グランコート名古屋」に場所を移して、大交流パーティーの開宴。技術士の方々が結成したバンドによるジャズ演奏とお酒と“名古屋めし（手羽先と味噌カツ）”を楽しみながら、宴は進んで行く。最後に、次回開催地である北海道本部による大会PRが行われ、（愛知・中部）から（札幌・北海道）へとバトンが渡り、大会は名残惜しく終了した。



写真-17 大交流パーティーの様子



写真-18 愛知から北海道へ

7. 名古屋城見学 ～出会いに感謝(^^♪～

大会翌日は名古屋城を散策。当初は一人でのんびりお城見学をする予定だったが、昨夜の二次会で元（公社）日本技術士会事務局の籠原さん（現在は名古屋市観光文化交流局 勤務）と同席することになり、酔いも後押ししたのか話が盛り上がり、幸いにも名古屋城を案内していただくことになった(^^♪

結局、Y氏と三次会まで流れて、朝寝坊してしまい、タクシーで現地集合場所へ向かうことに(^^;



写真-19 二次会の様子

で、タクシーに連れていかれたのは“名古屋城正門”待ち合わせ場所は“東門”？急いでゴロゴロ（キャリーバッグ）をコインロッカーに入れて、東門まで“ダッシュ”慌てて合流した私に気を使っていたのか、まずは、二の丸にある“二ノ丸茶亭”で抹茶と小椋トーストをいただく。二ノ丸庭園や“清正公石曳期の像”などを散策してから本丸御殿へ入場。



写真-20 ニノ丸茶亭の抹茶



写真-21 清正公石曳きの像

本丸御殿内部は、まず、將軍専用のふろ場である「湯殿書院」から案内していただき、玄関～表書院～対面所へと進み、最後は襖絵・天井板絵や豪華絢爛な彫刻欄、飾金具等で彩られ、贅の限りを尽くしていた「上洛殿」（三代將軍家光の上洛に合わせて増築された建物）を見学した。籠原さんの見事なガイドに感謝です。



写真-22 本丸御殿（平成 30 年復元工事完成）



写真-23 湯殿書院

將軍専用の風呂場（サウナ式蒸風呂）



写真-24 玄関

美しい唐破風の奥に虎と豹がじっと睨む



写真-25 表書院

正式な謁見に用いられた、本丸御殿内 で一番広大な建物

“豆知識”

「名古屋城本丸御殿上洛殿一之間の欄間に「諫鼓に鶏」が飾られている。

一般的には「閑古鳥」というと、「閑古鳥が鳴く」という諺から、人気がなく、流行っていないという印象があると思う。実は、一説に以下のような話がある。

「昔、中国の皇帝が、朝廷の門前に太鼓を置き、天子政道に誤りがある時は人民にそれを打たせてその訴えを聞こうとした。

これを「諫鼓」という。しかし、政治に誤りがなく、打つことが無かったため、鶏が太鼓に住みつくほどであったと言う故事から「天下泰平の象徴」と言われている。

by 名古屋城振興協会

8. おわりに

名古屋城見学の締め、本丸御殿越しに名古屋城が見える“ビューポイント”で集合写真をパシリ！来年の「第50回技術士全国大会（札幌・北海道）」での再会を期して散会。

大会に参加して、技術者として技術研鑽に励むことは言うまでもなく、他分野の技術士と交流し、また、歴史・文化・社会経済などを学び、物事を“俯瞰”する力を養うことが肝要であると感じた。



写真-26 上洛殿

～細部まで豪華絢爛。技術と贅の粋～



写真-27 上洛殿の欄間の「諫鼓に鶏」



写真-28 本丸御殿越しに見える名古屋城をバックに記念写真